

八戸ブックセンター 企画事業報告書 (令和4年度版)

観光文化スポーツ部
文化創造推進課 八戸ブックセンター



目次

八戸ブックセンターの基本方針	1
取り組みの全体像.....	2

セレクトブックストア	3
------------------	---

「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」 「本でまちを盛り上げる」ための企画事業

本のまち読書会.....	4
アカデミックトーク.....	5
執筆・出版ワークショップ	6
ギャラリー展	7
パワープッシュ作家.....	8
本のまち八戸ブックフェス	9
ブックサテライト増殖プロジェクト.....	10

さまざまな機関との連携

子どもたちに向けて	11
全国の図書館、教育機関との連携.....	12

「本のまち八戸」を知ってもらう.....	13
----------------------	----

施設の活用	14
-------------	----

(参考データ① 令和4年度八戸ブックセンター決算額).....	15
---------------------------------	----

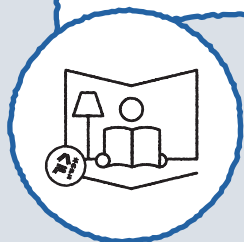
参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移.....	16
------------------------------	----

八戸ブックセンターの基本方針

八戸ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。

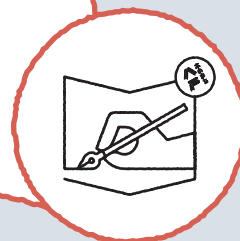
1. 本を読む人をふやす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。



2. 本を書く人をふやす

当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。



3. 本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。



八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

取り組みの全体像

八戸ブックセンター

書店の機能を持ち合わせた公共施設で、本の販売という単一の機能に留まらない、本を通した市民交流及びまちづくりの拠点施設としての3つの機能



①セレクト・ブックストア機能

テーマ別の陳列などにより、本との偶然の出会いを創出すると合わせて、本を「私有」して読む体験を促します。

②「本のまち八戸」の拠点機能

「本のまち八戸」を推進する拠点施設として、民間書店や公立・学校図書館、マイブック推進事業との連携やサポートを行います

③本に関する企画実施機能

八戸ブックセンターの企画運営方針（基本計画書）に沿って各種企画事業に取り組みます。

連携やサポート

連携やサポート

連携やサポート

民間書店

- 地方の民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで揃えるなど、差別化・補完することで、面的に地域として市民が本に出合う環境を豊かにします。
- 八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経験者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- マイブック推進事業（ブッククーポン）や、八戸ブックフェス、パワープッシュ作家などの取組を通し、民間書店での本の購入を促進します。

公立図書館

- ブックフェスなど企画での連携を図ります。
- 絶版本など購入ができない書籍への問合せに対応した情報提供を行います。

学校（図書館）

- 市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- 市内小中学生を対象とした読書ワークショップの実施や職場体験への協力をします。
- 学校図書館司書研修会において、子どもの本についての情報提供をします。
- 高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行います。
- 八学大、八工大、八戸高専学生が大学・学校図書館に配架する本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

公共・民間施設

はっちや美術館を中心とした公共施設のほか、民間施設・団体と連携し取り組むことで、企画内容の充実や回遊促進のほか、市内各所で本に触れる機会を提供するなどの相乗効果を図ります。

セレクトブックストア

本を買って手にとるという体験／市直営施設がなぜ本を販売するのか



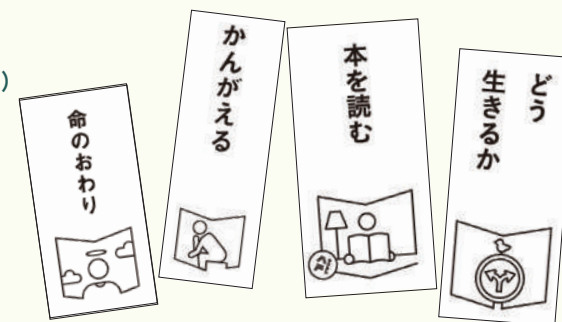
品揃えを補完する試み（民間書店との棲み分け）

「売れ筋だけの取り揃えでは文化の多様性はますます先細る」という、地方都市と大都市との間での文化格差課題を解消。

偶然出会う本（未読ジャンルへの誘い）

「出版物は全部置く」都心の大型書店やとは異なり、様々なジャンルの入口となる本を「敢えてセレクトして並べる」ことでこれから出会う未読ジャンルへの選択肢を提案。

館内棚カテゴリの一例)



特設フェア

様々な方や取り組みとも連携しながら「その時に読んで欲しい本」を選書し、特設フェア棚づくりをしています。（写真はLGBTQIAの権利擁護活動を行っている青森レインボーパレード実行委員会と連携した棚）



本の塔の周りでの展開

「日常の価値を問い直すビジネス・カルチャーマガジン」というコンセプトで創刊されている『XD MAGAZINE』を紹介するコーナーをつくり関連イベントも開催し、地方ではあまり見かけない雑誌を手にとってもらうことに繋がりました。

本のまち読書会



本のまち読書会 呉勝浩『爆弾』を読む

ゲストを招いた読書会

作家や編集者、出版社などのゲストを招き、普段の読書とは違う目線からの話を聞けるトークイベントのほか、作品に関するワークショップなどとして、さらに深く本を楽しむきっかけに繋がっています。

新たな本との出会い、

本を通じた交流を生み出す

その時々合った様々なテーマを設定した「読書会」により、新たな本との出会いを創出しており、この企画をきっかけに、本好きの参加者による新たなコミュニティが生まれ、ブックセンターを会場にした市民主体の読書会が定期的実施されています。



【『いつもだれかが見ている』刊行記念] 見えるものとかたるとの作家・大竹昭子によるトーク 会場・八戸市美術館

アカデミックトーク



【アカデミック・トーク】運動で脳を活性化！～研究と人生～ 講師・水野 眞佐夫（八戸学院大学 学長）

知的好奇心を刺激する

教育機関や文化施設などから講師を招いての、本を軸にしたアカデミックなトーク。各分野からの専門的なお話により、本に対する興味を沸き立たせます。

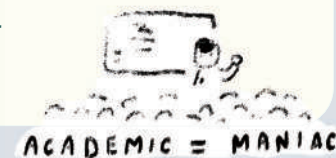
トークに合わせて、各講師に選書していただいた「ひと棚」を展開し、さらに理解を深められるような仕掛け作りをしています。



弘前大 上條信彦教授「縄文」選書棚

多様なゲストで幅広い世代の方に

「普段は聞くことがない内容でよい機会になった」と幅広い世代の方から意見をいただいています。また、市外の文化施設から講師を招くこともあり、参加者がその施設を訪問することにも繋がっています。



地元ゆかりの貴重な資料を公開

「北村益の演舞映像と北村小松」ではあまり公開されることのない北村益（第3、5代八戸町長）の居合映像をスクリーン投影し、居合に関心のある参加者から「貴重な映像を見ることができた」「かなりくわしく映っており、非常によかった」というお声をいただきました。



令和4年度実施状況

- ・『龍になったおしょうさま』刊行記念「十和田湖伝説と南祖法師」（ゲスト：普賢院住職 品田 泰峻氏）
- ・「北村益の演舞映像と北村小松」（ゲスト：県文化財保護協会副会長 滝尻善英氏）
- ・八工大公開講座「たのしい物理～光と屈折のはなし～」(ゲスト：八工大 関秀廣氏)
- ・青森県立美術館 2021年&2022年の夏～大・タイガー立石展とコレクション展 2022-2+3～(ゲスト：青森県立美術館 工藤健志氏)
- ・「運動で脳を活性化！～研究と人生～」(ゲスト：八学大学長 水野眞佐夫氏)
- ・「寺山修司記念館企画展『寺山修司のラジオドラマ』解説 - 耳で聴く物語の世界への誘い」(ゲスト：寺山修司記念館 広瀬有紀氏)
- ・「なんでも測って比べてみよう！～日常生活から量子コンピュータまで～」(ゲスト：八戸高専 角館俊行氏)

執筆・出版ワークショップ



田丸雅智「超ショートショート講座」

「書く楽しさ」を体験

高校生を対象とした超ショートショート講座を開催し、23人が参加。グループ内でのアイデアセッションをしてから短い小説を書き、2日目には作品の感想を伝え合う感想会も開催。書く楽しさを体験していただくことができました。また、後日、ブックセンターで講師からのコメント、生徒によるイラストとともに作品集を制作、参加者に配付することにより、自分の作品が「かたち」になる体験にも繋がっています。

他の人の作品についての感想を伝え合うなど、参考にもなり、楽しく書くことができました！

超ショートショート講座 参加者数

H31.2.23	19
R2.12.25 (高校生向け)	27
R2.12.26 (一般向け)	27
R5.3.25 ~ 26 (高校生向け)	23



「つくる楽しさ」を共有して自分でつくる

雑誌（ZINE）の面白さを知ってもらうため、『ピバ！オルタナティブはちのへ』を制作・出版した写真家の奥川純一さんをゲストに招いて、HACHINOHE ZINECLUB キックオフミーティングを開催。実際にZINEなどを制作している方も参加しての開催となり、「このような取り組みを続けてほしい」「表現活動をしている人たちで定期的集まりたい」といった意見もあり、「本をつくる楽しさ」を伝えるイベントの継続開催に繋がっています。

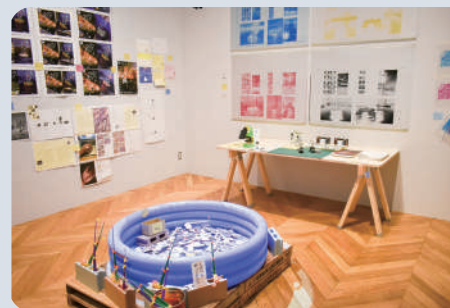
ギャラリー展



「紙から本ができるまで／土から土器ができるまで」展（令和4年5月21日～8月21日）

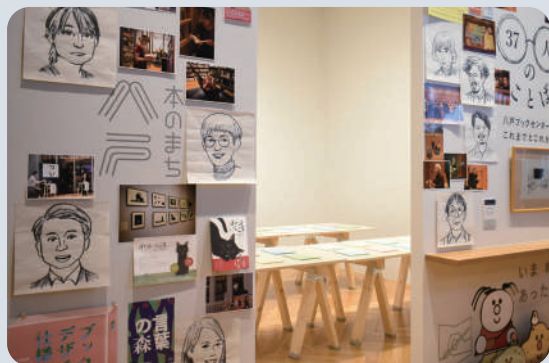
“本”をつくることの奥深さを知ること、 本への興味をふくらませる

「絵本を建てる 井上奈奈の仕事展」では、絵本ができるまでを紹介し、絵本づくりワークショップなども開催することにより、全世代の方に絵本の魅力を伝えるような企画としました。また、この展示を記念し八戸ブックセンター初となるブックレットを制作・出版しました。



「絵本を建てる 井上奈奈の仕事展」
（令和5年1月21日～3月19日）

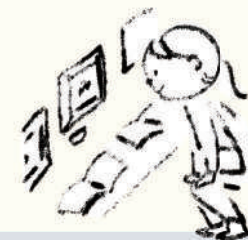
「紙から本ができるまで展 佐藤時啓
—八戸マジックランタン— 展覧会図録ができるまで」
（令和4年10月29日～令和5年1月9日）



「八戸ブックセンターのこれまでとこれから展」（令和4年9月3日～10月23日）

“本”を切り口にしたさまざまな展示

開館以降、本との出会いや、知的好奇心を刺激するような企画により、来館者の方々に楽しんでもらっています。「八戸ブックセンターのこれまでとこれから展」では、八戸ブックセンターのオープン以来の企画で協力いただいた方からのメッセージの紹介などで、これまでの歩みを振り返るとともに、これからの八戸ブックセンターが目指すものを伝える展示となりました。



パワーブッシュ作家



八戸市出身作家 呉勝浩さん スペシャルトーク (パワーブッシュ作品『爆弾』関連企画)

「八戸の作家」「八戸の作品」を盛り上げる

八戸に関係する人、本を幅広く紹介し、「本のまち八戸」盛り上げる企画のひとつとして実施しています。2020年から3年連続で直木賞候補作となった八戸出身の呉勝浩さんを招いてトークイベントを開催しました。これまでの作品、創作の原点などの他、呉さんの人物像や人柄についても、幅広い市民に知っていただける企画となりました。

八戸市読書団体連合会主催「作家を囲む読書会」など連動企画も開催し、地元出身作家と市民の交流にも繋げています。



八戸市読書団体連合会
「作家・呉勝浩氏を囲む読書会」



パワーブッシュ作品
『羊毛フェルトの比重』刊行記念イベント



2020年に「をりをり 読み耽り」で第100回オール読物新人賞受賞で作家デビューした三沢在住の高瀬乃一さんを招いて、初の単行本『貸本屋おせん』刊行記念のトークイベントを開催しました。創作秘話などを聞くことで、さらに深く本を楽しむきっかけに繋がっています。

令和4年度実施状況

- ・『羊毛フェルトの比重』刊行記念イベント (第1部:羊毛フェルトワークショップ、第2部:トークイベント) (ゲスト:高森美由紀氏)
- ・呉勝浩『爆弾』第167回芥川賞・直木賞発表&受賞者記者会見生放送パブリックビューイング
- ・八戸市出身作家 呉勝浩さんスペシャルトーク
- ・「大江戸ピブリア捕物帳の世界」をりをり読み耽りから『貸本屋おせん』まで (ゲスト:高瀬乃一氏)

本のまち八戸ブックフェス



盛岡在住作家・くどうれいん書店

市民が本に触れる機会をつくる

年に1度、中心街（はっち、マチニワ、ブックセンター）で開催する「本のまち八戸ブックフェス」。市民参加型の一箱古本市や書店、飲食店は、予定していた出店数がすぐに決まってしまう応募があるなど、イベントの認知度は高まってきています。

はちのへホコテンと同日に開催することにより、中心街への来街動機に繋がっており、特に子ども向けのイベントには多くの家族連れが訪れ、ブックセンターでは、2016年のオープン初日に次ぐ来館者数を記録しました。来場者、出店社からは多彩なイベントで来場者間の交流もできると評判が良く、継続しての開催を希望する意見をいただいています。



飲食店ブース

八戸市内の飲食店による出店ブース。中には、本の内容にちなんだメニューを提供するお店も。購入した本を読みながら、おいしいものも味わえます。



令和4年度実施状況(9月25日実施)

(一般応募型による) 一箱古本市 (13 店舗)
市内書店、県内古書店ブース (6 店舗)
出版社ブース (5 社)
飲食店ブース (6 店舗)
学校図書館ブックリサイクルフェア
はっち雑誌ライブラリサイクルフェア
移動図書館車 展示貸出
くるみ製本ワークショップ
ドラえもんさがしっこ (3会場回遊イベント)

一箱古本市

市内外の出店者が、思い思いの本を一箱分持ち寄る古本市。店主との会話を楽しみながら、本を探ることができます。



移動図書館車

市内各地域約 50 カ所のステーションを月 1 回巡回している移動図書館車の展示・貸出。



ブックサテライト増殖プロジェクト



他にも・・・

ドトール八戸十三日町店

「ていねいな暮らし」というテーマで、ショッピングの合間、一息つく時間にコーヒーとともに楽しんでもらいたい本を選びました。ゆっくりと眺めたり、くすつとわらえたりするような、大人にも読んでもらいたい絵本も集めました。

八戸市美術館

「八戸市美術館で読みたい本」というテーマで、美術館の楽しみ方を紹介する本のほか、八戸市美術館が掲げる「出会いと学びのアートファーム」にちなんで、子どもがアートに触れるきっかけとなるような、色彩豊かな絵本などを選びました。

市内全域に広がる本棚スポット

市内の小売店や飲食店、公共施設などに呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置。本箱の中にはそれぞれの店舗に合わせた選書をしており、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本棚がある「まち」を目指します。

今年度は新しく、青い森信用金庫の3支店（鯨支店、沼館支店、八戸駅通支店）に本箱が加わりました。

各店舗からはお客様の待ち時間を豊かにしてくれているとの嬉しいご報告をいただいています。

青い森信用金庫鯨支店

「地域とともに」というテーマで、鯨出身の編集者・坂本政謙さんが手がけた作品『月の満ち欠け』や種差が映画のロケ地となった『マイ・ブローコン・マリコ』などゆかりのある作品などを集めています。

ブックサテライト参加施設

- 青い森信用金庫（本店営業部、湊支店、廿三日町支店、根城支店、河原木支店、南林家支店、鍛冶町支店、中居林支店、湊高台支店、鯨支店、沼館支店、八戸駅通支店）
- ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
- スターバックスコーヒー（八戸田向店、八戸城下店）
- 八戸市水産科学館マリエント
- 八戸市博物館
- 八戸市立市民病院 周産期センター
- 八戸市美術館



さまざまな機関との連携

子どもたちに向けて



学校図書館司書によるブックトーク



学校図書館司書との連携

学校図書館司書が中心となり、市内の小学校を訪問し、おすすめの本を紹介する「出張ブックトーク」を実施しています。また、月1回行われる学校図書館司書の研修会では、子どもと本が出会える環境づくりを目指して、子どもの本についての意見交換や情報提供をしています。

マイブック推進事業での連携

市内の全小学生へ2000円分のマイブッククーポンを配付し、書店で本を買う体験を勧めています。ブックセンターでは、クーポンと共に配付する「おすすめブックリスト」を作成をしています。



ブックリスト「本はともだち」

本に触れる機会づくり・情報発信

子育て支援課の「はちすくLINE」事業（子育て中の方に向けたLINEでの情報発信）で、ブックセンターからもおすすめの本を紹介するなど、親子で本に触れる機会づくりに力を入れています。



さまざまな機関との連携

全国の図書館、教育機関などとの連携



学生が本と出会う場を創出する

市内の高専生、大学生によるブックハンティング（学校・大学図書館に配架する本を学生自ら選書するもの）を実施しています。



(令和4年度実績)
八戸学院大学 (10名参加)
八戸工業大学 (計2回9名参加)
八戸高専 (8名参加)



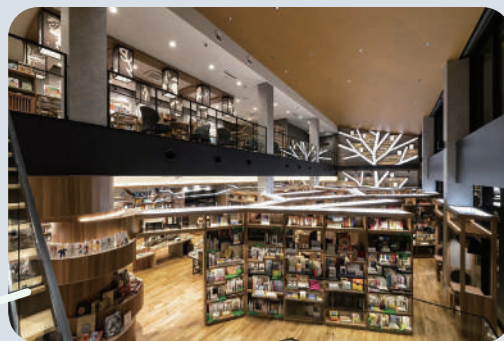
ブックハンティングでは・・・

学生とブックセンタースタッフで、「なぜ、その本を選んだか」など本についてのディスカッションも行い、本に対する知的好奇心を深めることに繋がっています。

全国の図書館、教育機関等との連携

全国各地からの依頼により「本のまち八戸」の取り組みを紹介することにより、八戸のPRにも繋がっています。

令和4年9月、福井県敦賀市に、八戸ブックセンターの事例も参考とした公設書店「ちえなみき」が開館しました。



(令和4年度実績)

- 令和4年度図書館司書専門講座 (主催: 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)
- 令和4年度二戸地区図書館職員等研修会 (主催: 二戸地区教育推進協議会、岩手県北教育事務所)
- 群馬大学地域貢献シンポジウム 2022 (主催: 群馬大学社会情報学教育研究センター)
- 令和4年度第6回図書館職員専門研修 (主催: 山梨県立図書館)

「本のまち八戸」を知ってもらう



BSよしもと「又吉・せきしろのなにもしない散歩」

積極的な情報発信

地元の報道機関以外にも、様々な媒体での情報発信に心がけています。令和4年度には、BSよしもと「又吉・せきしろのなにもしない散歩」、ネット配信番組「ポリタスTV」の撮影場所としてブックセンターを利用いただきました。



「ポリタスTV」公開配信

「本のまち八戸」の取り組みを知ってもらう

フリーペーパー「ほんのわ」では、市内のブックスポットや「本のまち八戸」の取り組みなどを紹介。2022年版では、エッセイストの能町みね子さん・「縄文ZINE」編集長の望月昭秀さんのエッセイを掲載するなど、「読み物」としての魅力も盛り込みました。



フリーペーパー「ほんのわ」寄稿

施設の活用

カンヅメブース



本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき「市民作家登録」をしていただいています。趣味で執筆している方のほか、小説やエッセイを執筆するプロの作家、ライターの方など、幅広い利用があり、利用されている方からは、執筆に集中できるとのご意見をいただいています。

	市民作家登録者		利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成30年度	51名	194名	153件	12.8件
令和元年度	41名	235名	204件	17.0件
令和2年度	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	28名	302名	307件	25.6件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

読書会ルーム



市内読書団体への貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業に活用しています。一般的な読書会だけでなく、短歌会やビブリオバトル形式の読書会など、多様な使い方があり、利用されている方からは、落ち着いた雰囲気の中、館内の本を読むこともでき、気軽に利用できるとのご意見をいただいています。

	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成30年度	57件	4.8件	69件	5.8件
令和元年度	73件	6.1件	42件	3.5件
令和2年度	50件	4.2件	32件	2.7件
令和3年度	52件	5.2件	14件	1.4件
令和4年度	87件	7.3件	16件	1.3件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

(参考データ① 令和4年度八戸ブックセンター決算額)

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額	
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	372
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	14,861
	諸収入	電気等使用料	89
		書籍売上収入	11,689
		その他雑入（執筆料、講師謝礼）	153
小 計		27,164	
一般財源		65,747	
一般財源（繰越分）		4,048	
歳入合計		96,959	

A.選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、会計年度任用職員4名	39,320
報償費	自主事業謝礼	3,760
旅費	自主事業等旅費	571
需用費	食糧費	77
役務費	通信運搬費	368
委託料	企画事業業務等	2,126
合計		46,222

B.本の販売等に係るもの

科 目		金 額
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）	205
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	21,530
	（うち書籍仕入分）	7,340
	（うち販売返品業務等分）	14,190
合計		21,735

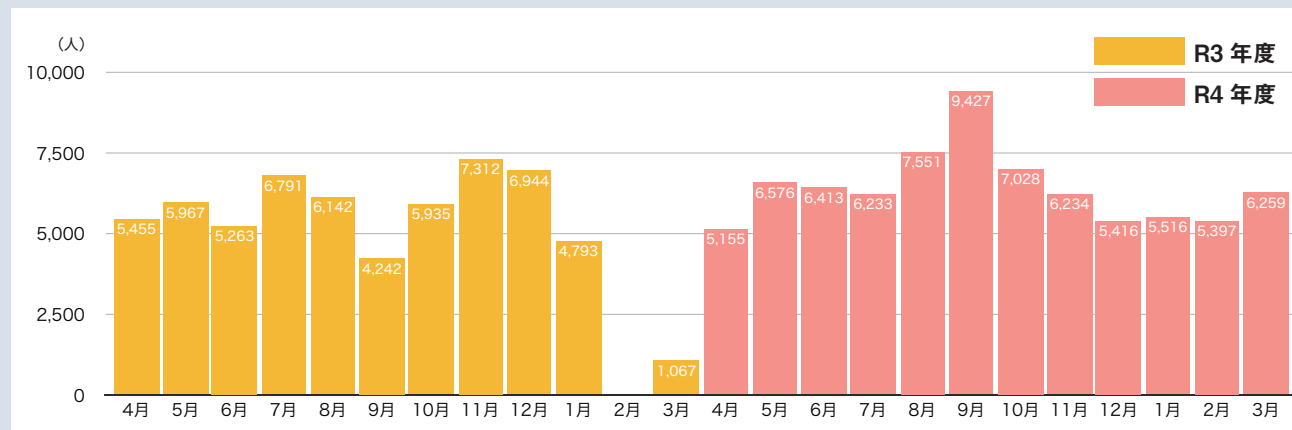
C.建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	2,716
	印刷製本費	45
	光熱水費	1,529
	修繕料	745
小 計		5,035
役務費	火災保険料等	84
	小 計	84
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,217
	その他（ホームページ運用保守業務等）	924
	在庫管理システム開発業務（繰越分）	4,048
	小 計	7,189
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,629
	その他（複写機使用料等）	1,065
	小 計	16,694
合計		29,002

歳出合計A+B+C 96,959

参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移

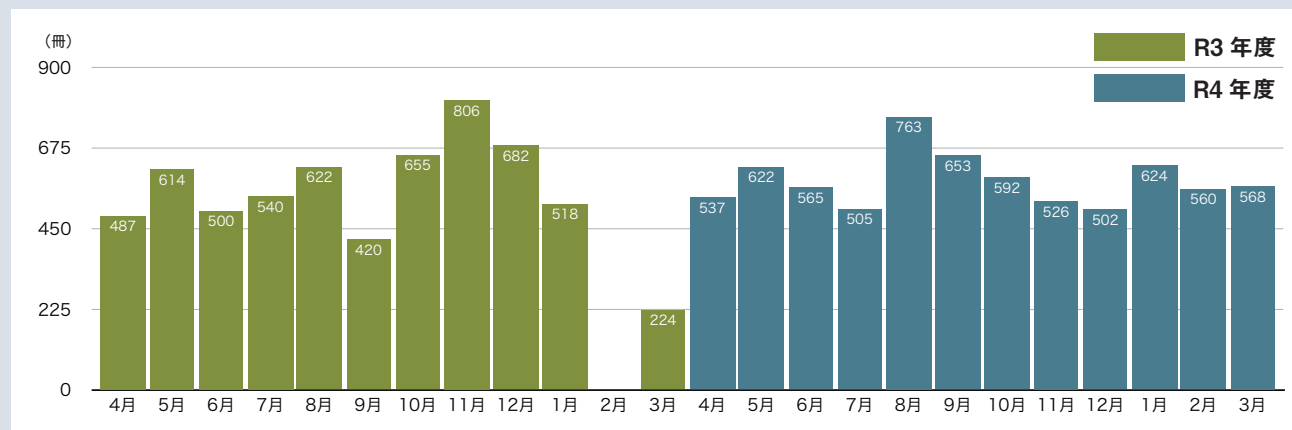
来館者数



来館者数

	累計	月平均	1日平均
平成30年度	125,983人	10,499人	406人
令和元年度	109,560人	9,130人	355人
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人

販売冊数



販売冊数

	販売冊数	月平均	1日平均
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊

販売金額（書籍のみ）

	販売金額	月平均	1日平均
平成30年度	12,620,094円	1,051,675円	40,710円
令和元年度	13,489,446円	1,124,120円	43,655円
令和2年度	10,694,146円	891,179円	35,886円
令和3年度	9,672,553円	967,255円	37,202円
令和4年度	11,078,017円	923,168円	35,968円

※令和2年4月29日～5月10日、令和4年1月25日～3月22日の期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出